



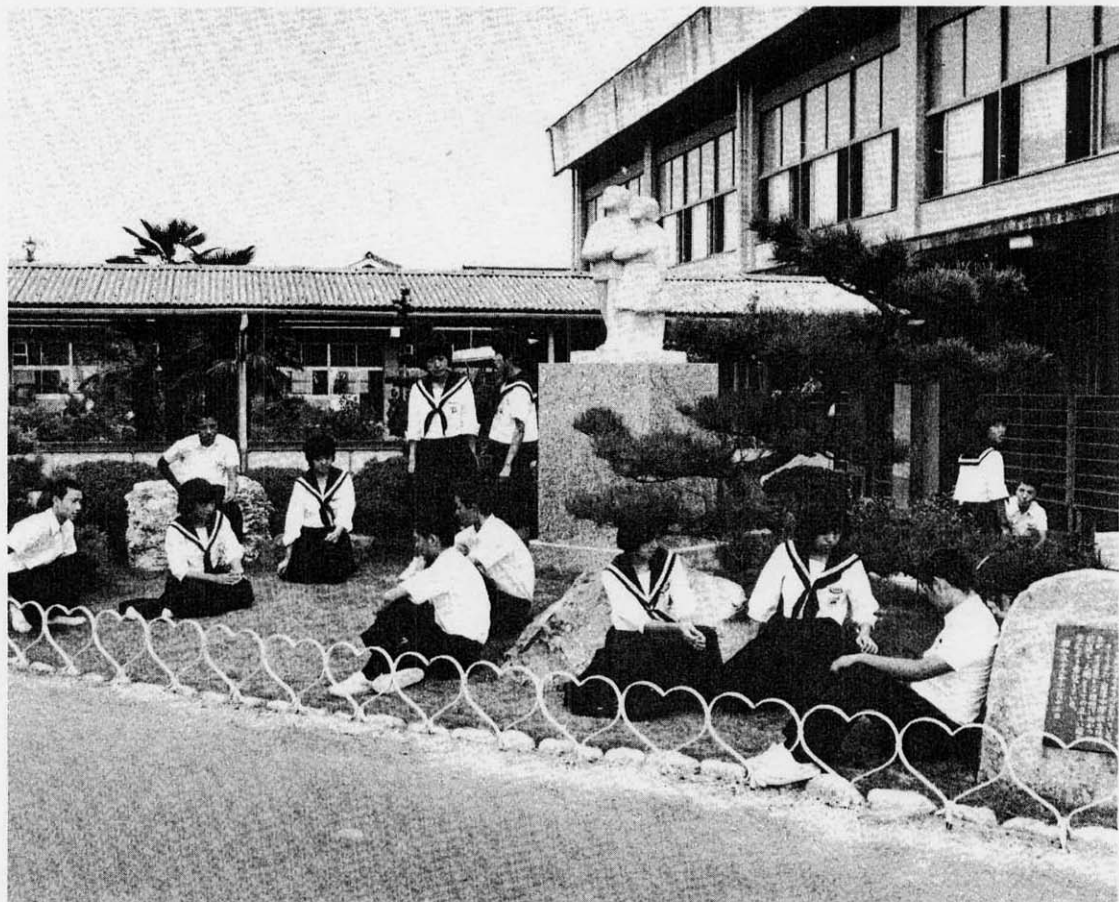
明るく澄んだ秋の陽を浴び
「友情の像」ここに立つ

輝く瞳は
凜として誇らかに
はるかなる大空を
仰ぎ見る

そは
何をか語り
何をか夢む

我ら
この像と共に学び
共に歩く

昭和53年10月1日 / 編集・発行 / 岡崎市教育委員会



(語らいのひととき 一岩津中)

— 教育随想 —

具体的学習について

松井貞雄



昭和五十一年十月九日、弘前市のりんご公園で、枝下一面に銀色の布が敷いてある木をみ、隣で「玉まわし」をしている人を観察しながら、話を聞いた。

りんご栽培は、花が咲くと人工授粉をし、花が散ると一花房に二果ほど残して他を摘果し、しばらくして一果に摘果して袋掛けする。袋掛けは、害虫防除ばかりでなく果皮を美しく仕上げるため、省力栽培として一時は無袋栽培が指導されたが、今では八〇%以上が有袋栽培という。この袋は、秋になると、果皮を太陽に当てて着色するためにはぎとる（袋はぎ）が、やわらかい果皮に強い太陽が当たると、焼けるので、一本一本、木全体を寒冷紗で覆う。二三日して果皮が太陽光線になれると、より太陽光線を当てるために寒冷紗を除く。さらに、葉を除去して（葉落とし）、果皮に日当たりをよくする。一面に色づいたりんごの木の写真は、この段階のものである。葉を落とさなければ、あのようにりんごは

沢山見えない。加えて、果実全体を赤く色づけるために、「玉まわし」と称してりんごをねじまわし、日当たりの悪い面に日を当てる作業を行う。そして更に、枝下一面に銀色の布を敷いて、太陽光線を反射させる。こうして果実全体が美しく着色すると、収穫する。

学会の前日、夜行で着いた直後の一時間ほどの観察と聴取りの一部を、「働く人々」に焦点を合わせてまとめると、以上のようになる。大量に生る一玉一玉のすべてに、袋掛け・袋はぎ・葉落とし・玉まわしをするのである。寒冷紗を掛けたりはずしたりするりんごの大木は、一ha経営でも大変な本数である。極限状態に近い集約的な栽培技術の労働によって、美しく味のよい一個百円余のりんごが生産され、こうした集約栽培でない経営が成り立たないのが、細細経営の日本の果樹作農家の現実である。教育の現場では、青森りんごは日本の何割生産され、関東へ出荷され、りんご不況で減反にな

り、高級品種に切りかえられている等々が、学習される。そして、その趣旨に沿って統計的資料が使用される。統計や統計を加工したグラフ・地図は、人間活動を抽象化したもので具体的資料ではない。りんごもみかんも、梨もぶどうも、こうした具体的学習が必要であるというのではない。が、果樹農業のどこかで、具体的学習に徹したいものである。具体的学習をすれば、「人間不在の社会科学学習」にはならないはずである。

「あんなに鈴なりになるりんごが、どうしてこんなに高いのか。」とか、「海で自然に繁殖する魚が、どうしてこんなに高いのか。」といった話し声に眼をさました私は、理髪店で理髪が終わるまで、戦後三十年の社会科学教育の反省点を考え続けた。これらは「人間不在の社会科学教育」の結果であり、それは抽象的学習に原因し、これを担当した教師は活字からのみ資料と知識を得ようとしてきたのではあるまいか、と。

経験的にいえば、教師は具体的観察、具体的取材が不得手のようだ。具体的取材が巧みな教師は、具体的な学習指導の骨を身につけた教師といえるのではなからうか。大学で身につけた具体的取材の能力も、「自主学习」だの、「自己深化をはかる教育」だの流行に振り回されてしほみつづめるのに気づかないでいるのではあるまいか。

(愛知教育大学)

誕生日

佐々木人美



○月×日、二年生のキャンパスが始まる。色とりどりの大きなリュックを背負い、元氣よくバスに乗りこんだ。どの子も、いつになく明るい顔。はずんだ声があちこちで飛び交う。バスは発車し、しばらく車中はざわめきのるつぼと化した。

学校を離れて十分ほどたったころ、突然ざわめきがとぎれた。「先生、どこにおるう。なんだあ。一番前か。」と、後ろの方で男子の声。さては、誰かバスに酔ったなと思ひ、「どうしたの。だれ。」とふりむいたとたん、「せーのーっ。」と、F君のかけ声で「ハッピーバースデイウユー。」の全員合唱。「先生、おいくつ」とS君。やっとなんざいになりました。ありがとう。「私の答えになせかどつと歓声がある。

又一坊ぞろいの私のクラスの生徒達に、こんなしゃれたまねができるとは、全くうれしい驚きである。私の〇〇才の誕生日だが、知らないはずの生徒たちにこんなふう祝ってもらって、この上なくう

赤とんぼ

ふるさとの自然

アキアカネ



トンボは遠い昔から人々に愛され親しまれてきました。弥生時代の銅鐸や、記紀にもその姿を見ることができま。その時代には日本のことを秋津島と呼んでいました。「あきつ」とは古語でトンボのことを表わしています。秋に稲穂が垂れると共に姿を見せるアカトンボを呼んだものと思われま。またアカトンボは生活に直接結びついていました。「昔は、朝早く起きてな。垣根に止まるとるアカトンボを手づかみにし、紙袋の中に集めてな。日陰干しにしてな、それを煎じて風邪薬にしたもんだ。」と老人が話してくれました。

現在市内に見られるアカトンボの仲間、十種類程です。このうち個体数が多い、通常アカトンボと呼ばれているのはアキアカネです。水田や小川で六月頃やゴから羽化して間もなく、高い山に登って夏を過ごし、秋風と共に産卵のため再び平野に舞い戻ると言われています。秋、運動場などをアカトンボがつながらりながらどこかへ飛んでゆく姿を見かけま。その多くはこのアキアカネです。前を飛んでいるトンボがオスで、メスを引っぱってゆく形になっています。このまま水辺へいき産卵行動に移りま。アキアカネとよく似ていますが、やや小さいものにナツアカネがいます。アキアカネ、ナツアカネの名前から現れる時期がずれているように思われがちですが、見られる時期はほとんどかわりませ。トンボの仲間も他の昆虫と同じようように成熟したオスはたいへん美しくなります。このナツアカネの成熟したオスは、複眼の先から尾端まで真紅になり、たいへんきれいなものです。この他に普通に見られるのはウスバキトンボですが、厳密に言くと、このトンボはアカトンボの仲間からはずれてしまっています。薄い黄色をした、赤トンボです。お盆トンボの名で呼ばれ八月中旬から急に数を増し、十月にかけて群れをなして飛んでいます。南から北へ一年の間に分布を広げてゆくトンボです。市内ではめずらしいアカトンボにキトンボがあります。市の東部に生息して

ます。オスもメスも成熟しても赤くはなりません。以前は、平地の池にも姿を見ることができましたが、生息できる水域は、都市化のために生活汚水で汚れ、急速に郊外へ追いやられてしましました。近年少しずつではありますが、アカトンボが増えてきたといわれま。生活の場所を水田やその付近の小川におくアキアカネなどは確かに、減反政策による休耕田の増加に伴って多くなつてきているようです。しかし、生活汚水の流れ込んだ池は、もとのきれいな水、美しい環境にはなかなかもどらないものです。環境の変化に敏感なキトンボ、ネキトンボなどのアカトンボは減ってゆく一方です。夕やけこやけの赤トンボ……。岡崎の空にこの歌声が絶えないようにしたいものです。(矢作中 鈴木栄二)



夏休み

関 邦 篤

現代っ子と見直した。(六ツ美中)

夏休みに入って初めての出校日。研修や職員作業の合い間にふと、子供たちのことが頭をよぎる。生傷の絶えないT、やせっぽっちのI、あき性のS、泣き虫のY、けんかばやいA、ひとりぼっちのN……。

朝、八時十五分。出勤してすぐ教室へ顔を出す、まつ黒の顔、顔、顔……。

「I君、少し太ったな」

「Y君、ぼうしとれよ。」

Yはニヤニヤして頭に手をやる。

「先生、Y君ね。まる坊主だよ。」

「ああ、そうか。すずしくていいなあ、ぼうし取って見せてくれ。」

「M君、病気かな。」

「ううん。うちじゅうで海へ行ったよ。」

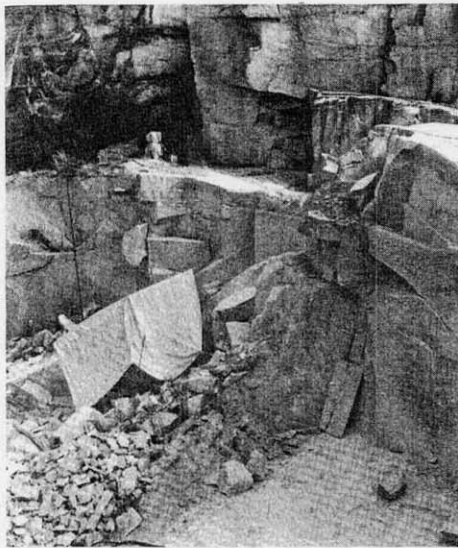
Sが腕をひっぱる。

「先生、宿題ちゃんも持ってきたよ。」

どんなものだと、いわんばかりに。せみとり、名古屋球場や海へ行ったこと、矢つぎばやの報告に返事もできない。Tがいう。

「ぼく、けがしなかったよ。」

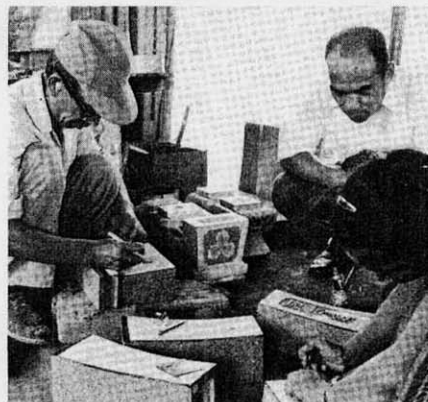
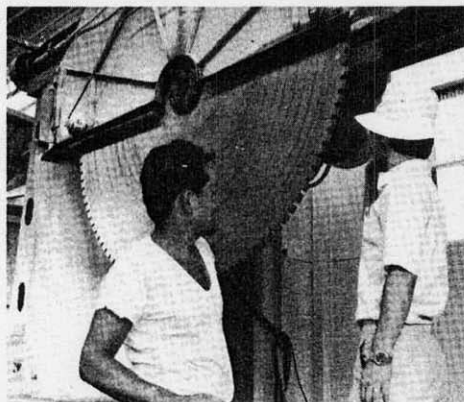
授業中はめったに話さない子供たちの生々とした目の輝きに、新任の私は全く新しい発見をした。(恵田小)



「昔の丁場は、職人の2・30人もいてのう。にぎやかなもんだった…」今は輸入材におされて……

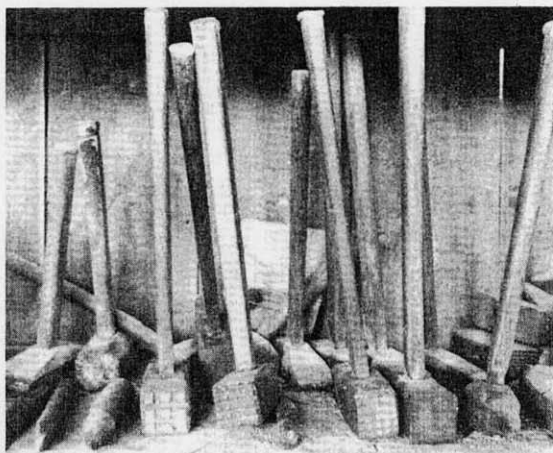
新聞紙上をにぎわせた日本一の雪見燈籠。高さ1丈。重さ36t、脚の下に大人が4人はいれるという。

これらのすばらしい芸術品を生み出すわが郷土産業「石工場」を探訪してみた。



切る・みがく・彫る。今は店々で分業……。

「へえー、これ一枚70万円?」「刃にダイヤがついてるでなあ。」「どのぐらいもつの」「2か月かな。40分で1万円はかせいでくれるよ」



機械では出せない味を出す。これ、「びしゃん」という道具。

「道具が機械に変わったただけだね。職人根性は昔のままだよ。」

昔、にぎやかな石屋町、今は公害をさけて静かな郊外へ移転。



兄は大物・弟は小物を無心に彫る。
「お盆を休んでいると腕かぶるから…。」
「こんなものは半日に彫れないと一人前にはなれんぞ。」 北海道から出て来たというこの石工さんは、のみを握って半年という弟さんをしごく。

教育日々



ぶどうがり

大樹寺小 沢 裕子

去年まであまり好きではなかった社会科の時間が今はとても楽しみなひとときになった。

きょうは、子どもたちはどんな表情を見せてくれるだろうかと胸をわくわくさせながら三の五の教室に入る。

「先生、きょうは『ぶどう作り』のところからだよ。」

おかさきの本をペラペラめくっている私に元気な声が教えてくれる。

「みんな駒立町のぶどうがりへいったことがあるかな。」

「うん、あるよ。」

「去年いったよ。」

子どもたちは、私のひとつの発問に对しさまざまに反応する。



「ぶどうがりにいったことのある人、どんなようすだったか話してちょうだい。」

すると、K子が、

「つるだながいっぱいあってわたしの背より少し高かった。」

と身ぶりを入れて話してくれる。いろいろな種類のぶどうがいっぱいあったぞ。」

「道よりちょっと高い所にぶどう園が広がっていたよ。」

「たねなしぶどうとたねありぶどうもあったよ。」

などと、思い出したことをどんどん付け足して発表してくれる。

「ところで、ぶどうがりにいって、よしたくさん食べてやろうと思うのだが、あまり食べれないね。皮やたねを出すのに手がつかれちゃうよ。」

とぼやく私に、M男はすかさず

「先生、ぼくそいう食べ方はしないよ。手をつかわないで実を口の中に五個ずつ入れておくんだ。そうして、まとめて皮をはき出すんだ。」

「たねはどうするの?」

「みんなおなかの中だよ。この食べ方だったら手がつかれることはないよ。口がつかれるけれどね。」

M男は一生懸命話してくれる。他のみんなの瞳もきらきら輝き出す。私もその真剣さに思わず笑いたいのをこらえる。

だから社会の時間が好きだ。子どもなりの生活の知恵を引き出すことができるこんな授業が

ひらがなじてん

美合小 高橋鏡二

「せんせい、きょうはなんていうおぼえるの。」

「ぼくのじてん、まんだまんだふえるね。」

「おもしろいじ? むずかしいじなの。」

子どもたちに、「ひらがなじてん」「かんじじてん」をつくらせるようになってから、文字に對

する子どもたちの興味がまし、意欲的に文字をおぼえて書くようになってきている。

本校では、一年生から六年生までそれぞれの学年に応じたシート(ノート)を作成し、使用してきたが、本年度から、それに加えて、ひらがな(一年生のみ)・漢字用のシートを取り入れた。

「つにつくことばはねえ……」

つくえ、つきみ、つる……」

「山——、えーつと、ぼくは山にのぼりました。山はたかいです。」

「あっ、ほんただ。き(木の絵)から木ができた。」

「おひさまから、日がきたよ。ほら——。」

「そんなら、おひさまはどうだろう。」

シートには、ひとつの文字について、字形、筆順、ことばあつめ(ひらがな)短作文(漢字)字源・練習などが書きこめるようになってきている。そしてそれをファイルしていくのである。

子どもたちは、自分で『じてん』を作っていくこと、厚くしていくことが楽しいのか、また書きこんでいき、文字が自分のものになっていく実感がうれしいのか、どんどんと、しかも、

ていねいに書きこんでいく。

U男は「ひらがなじてん」をだいにしているひとりである。入学式の日、心配そうな顔をした母親から、

「うちの子は名前しか書けませんで、どうかよろしくお願います。」

と、言われた。五十音を調べてみたが、その通りであった。

それから、三か月。

「ひらがなじてん」を始めて、U男の文字は少しずつだが確実にふえ、六月の終わりには、日記を書いてくるまでになった。

このような指導を通して、さらに、子どもたちの語いを豊かにし、音読の力、書く力をつけていきたいと思っている。





昭和五十五年刊行をめざして

岡崎教育史要(第三集) 編集始動

岡崎教育史要(第三集)の資料調査が八月から開始された。昭和五十四年度執筆・編集、同五十五年度編集・刊行の計画で進められる。

岡崎教育史要は、第一集が昭和三十三年三月に、第二集が昭和四十六年三月にそれぞれ刊行されている。

本編はこれを受けて、昭和四十六年から十九年の当市教育の変遷と発展を記録にとどめ、将来に残すもので、編集にたずさわる人は次のとおりである。

- ▽編集委員長 神谷卓爾(南中)
- ▽副委員長 Ⅱ 荻野富義(広幡小)
- Ⅲ 主査 Ⅱ 横井滋(城北中) 沢田昇(美合小) 小林績(矢東小)
- Ⅳ 角谷米三(常東小) Ⅴ 委員 Ⅱ 野

【寄贈刊行物・資料等】 ◇ひびき合う学校へ2集

美合小学校編
子どもを知る目と心をとぎす
ます美合小学校教師日々の記録。
B6判・一五〇頁

集号。A5判・一〇六頁
◇岡崎市水生昆虫類調査(中間報告No.2)
岡崎市編
男川・乙川の水質と水生昆虫との関係の追跡実態調査。B5判・二五頁。

ほかに特別コーナーを設け視聴覚、製作(簡単な木材加工、皮の製作)、アマチュア無線、実験などを展示、紹介する。
■第二十回中学校英語暗誦大会
▽期日 Ⅱ 十月二十七日(金) Ⅲ 場所 Ⅱ 竜海中学校体育館 Ⅳ 内容 Ⅱ 一年「私の家族」について、二・三年、教科書から一題材を選び自分の表現で発表。
発表者四十二名は、発音、記憶度、表現、態度の観点で審査される。

の競技種目でおこなわれる。
男子 Ⅱ 一〇〇M走、六〇MH
一〇〇M走、四〇〇MR、走り幅、走り高、ボール投、女子 Ⅱ 一〇〇M走、六〇MH、四〇〇MR、走り幅、走り高、ボール投、低学年(四年以下) 男女 Ⅱ 四〇〇MR。

◇作品評価の基準と方法(形成24号)
形成の会編
後藤金好先生ご寄稿による特

◇ごみのしまつ 岡崎市編
市内のゴミ処理を写真、統計図表で説明。B5判・一二頁

▽講演 Ⅱ 県立岡崎高校二年(留学中) モリソン・ステイブンスさんの「アメリカの学生生活」
▽表彰 Ⅱ 中村ユニオン産業英語教育振興費によって、ユニオン賞が代表者に渡される。

▽29・30日 Ⅱ 美合、矢作、同南、六名、根石、岡崎、城南、常磐、同東、同南、緑丘、男川、秦梨、生平の一四校、一〇七二名。

田守志登(本宿小) 太田要(六名小) 青山士司(矢東小) 河合洋人(常磐小) 長坂澄(根石小) 小林かほる(大樹寺小) 磯谷栄一(福岡中) 中垣剛(竜美丘小) 岩月健(広幡小) 鈴木聡一(六北小) 伊奈肇(連尺小) 杉浦正明(岩津中) 遠山真吉(福岡小) 柳原正樹(甲山中)

後期教育実習始まる
来る十月二日から二週間と四週間の日程で、後期教育実習が小学校九校、中学校八校で開始される。配当校と実習生(人数)は次のとおり。

▽期日 Ⅱ 十月十日(火) Ⅲ 場所 Ⅱ 岡崎市体育館 Ⅳ テーマ Ⅱ 教材の開発と生活の創造 Ⅴ 内容 Ⅱ 男子は木工、金工、機械、電気、栽培に関するもの、女子は被服、保育、住居、食物に関するもの 三五〇〇点を展示。

▽30・12/1日 Ⅱ 岩津、恵田、細川、大樹寺、奥殿、羽根、大門、三島、連尺、矢作東、同西、竜美丘の一、二校、一〇八四名。

▽小学校 梅園小 Ⅱ 愛教大4名
・岡女短4名、根石小 Ⅱ 愛教大4名、名女大5名、美合小 Ⅱ 愛教大5名、林女短2名、緑丘小 Ⅱ 愛教大5名、名自女短2名、

常磐中 Ⅱ 日福大1名、愛知大1名。
■第五回中学校技術・家庭科作品展
▽期日 Ⅱ 十月十日(火) Ⅲ 場所 Ⅱ 岡崎市体育館 Ⅳ テーマ Ⅱ 教材の開発と生活の創造 Ⅴ 内容 Ⅱ 男子は木工、金工、機械、電気、栽培に関するもの、女子は被服、保育、住居、食物に関するもの 三五〇〇点を展示。

▽中学校 甲山中 Ⅱ 愛教大2名
・愛大短3名、竜海中 Ⅱ 日福大2名、中京女短2名、愛大短1名、福岡中 Ⅱ 名自短1名、名女短1名、同朋大1名、河合中 Ⅱ 愛大1名、愛大短1名、香山中 Ⅱ 同朋大1名、名市女短1名、岩津中 Ⅱ 名自短3名、愛大短1名、名女短1名、矢作中 Ⅱ 名女短3名、日福大1名、安城女短1名

▽中学校新人戦が十月二十一日から二十九日まで次の競技種目と会場でおこなわれる。
野球 Ⅱ 葵、城北、ソフトボール Ⅱ 南、ハンドボール Ⅱ 美川、庭球 Ⅱ 公園、卓球 Ⅱ 矢作、剣道 Ⅱ 竜海、バレーボール Ⅱ 甲山、葵・城北、福岡、岩津、バスケットボール Ⅱ 南、市体育館、体操 Ⅱ 東海、柔道 Ⅱ 市体育館、陸上 Ⅱ 公園
▽小学校陸上競技大会が十月二十九日、岡崎公園グラウンドで次

築山御前の首塚



所在地一岡崎市欠町・八柱神社

東公園口でバスを降り、東公園にむかって三分ほど歩く。八柱神社の鳥居を右に見て、少し歩くと「築山御前の墓」と書いたたて札を見る。徳川家康の第一夫人。時の天下人、信長に圧迫され、天正七年八月二十九日遠州富塚で殺害され、九月十五日には実子信康も遠州二俣城で自殺させられた。「戦国の世といえ、信長公の権威をおそれ、わが妻、わが子をなくした家康公の心中は……。」と碑に刻まれている。朽ち果てた首塚の後方

に新しい墓がある。五十一年、浜松市の西来寺（御遺がいを埋葬した廟堂のある寺）の住職の一行が来られ、「これではあんまりだ。粗末すぎて築山さんがかわいそう。」と言われた。この言葉をきっかけに八柱神社の氏子方の努力により五十二年十月十八日に建立された。浜松市の「築山殿墓石西来院」の碑面と同じ法名が刻まれている。首塚に参り碑に書かれている築山御前の生涯を読むと、辛さが身にしみて来る。

●カット

城北中

熊谷 千恵子

日本を

- | | |
|----------------|---------|
| ○むもん法話集 | 山田 無文 |
| 春秋社 | ¥ 1500 |
| ○家庭教育論 | 広中 平祐 |
| 講談社 | ¥ 680 |
| ○娘がいま知っておくべきこと | 草柳 大蔵 |
| 大和書房 | ¥ 880 |
| ○学歴社会・新しい文明病 | R・P・ドーア |
| 岩波書店 | ¥ 1200 |
| ○日常の生態学 | 水野 寿彦 |
| 築地書館 | ¥ 570 |
| ○フィリピンの一日本人から | 大 沢 清 |
| 新潮社 | ¥ 800 |
| ○落日 | 松山 春雄 |
| 永田書房 | ¥ 1300 |
| ○深重の海 | 津 本 陽 |
| 新潮社 | ¥ 780 |
| ○現代の学力問題 | 広岡 亮蔵 |
| 明治図書 | ¥ 1100 |
| ○私は新米教師 | 毎日新聞社編 |
| | ¥ 880 |

おんぶ、うばぐるま。遠くにいつてしまつたようだ。めずらしくおんぶのあかちゃんを見た。ほっぺを背中によせて満足そうにねむっていた。表情の温かさに心が和んだ。先日背中合わせにしようわれている子を見た。よその人にあやされて笑い顔はみせていたが、母親は知らん顔して向こうを見ていた。

シオシア

暑い。夏休みの午後。「岡崎再見」で石工団地に取材に行く。みんな親切に取材に応じてくださる。「一日仕事を休むとそれだけ腕がにぶるので。」と盆休みも返上で、大きな地蔵を彫る北海道出身の若者の声が今も耳に残る。弟は、その隣で黙々と小さな地蔵を彫っていた。美しい姿だった。

新規教員採用試験。ひのえ午が中一になる来年は、中学校採用は、驚くべきほどの倍率。昔から教員採用志願者と不況は、大きな関係があるようだ。今の学生たちにとっては、教師の職は高嶺の花だという。それだけに、現に職にあるわれわれも、自負して教壇に立たなくては……。

「すぐ帰らせてもらって教研のレポートを仕上げなくちゃ。」という下心をジュースとお菓子にかくして、夜の編集会議室へ。チャットチャットとチャンスをつかがうが。——やっぱり——おもしろいです、この仕事。蚊に手足をアクアクにされても。パチン／チクショウ、また血を吸われた。